

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 ：一般国道11号 <small>とくしま</small> 徳島インター関連	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 四国地方整備局
起終点 ：自：徳島県徳島市川内町鈴江北 至：徳島県徳島市川内町竹須賀	延長 ：0.2km	
事業概要 ： 徳島インター関連は、四国横断自動車道（徳島IC～鳴門JCT）の整備にあわせ、四国横断自動車道と一般国道11号を接続する事業であり、本インターは、京阪神地方の拠点都市（神戸など）から徳島市に直結される初のインターチェンジとなる。 本インターは、徳島中心部などから西日本広域への工業製品や農水産物などの物流効率化や観光振興、救急医療における搬送時間の短縮、緊急輸送道路の機能強化、さらに、並行する一般国道11号等の交通流の円滑化、沿道環境の改善など重要な役割を担う道路である。		
H6年度都市計画決定	H14年度事業化	H18年度用地着手
全体事業費 ：約83億円		事業進捗率 ：約72%
計画交通量 ：3,900 台/日		供用済延長 ：0.0km
費用対効果分析結果	B/C ： <small>（事業全体）</small> 1.7 <small>（残事業）</small> 6.5	総費用 ： <small>（残事業）/（事業全体）</small> 19/75億円 <small>（事業費）</small> ：19/75億円 <small>（維持管理費）</small> ：0.32/0.32億円
総便益 ： <small>（残事業）/（事業全体）</small> 126/126億円 <small>（走行時間短縮便益）</small> ：104/104億円 <small>（走行経費減少便益）</small> ：16/16億円 <small>（交通事故減少便益）</small> ：5.8/5.8億円		基準年 ： 平成21年
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 ・交通量変動：B/C= 6.9（交通量+10%） B/C= 6.2（交通量-10%） ・事業費変動：B/C= 5.9（事業費+10%） B/C= 7.2（事業費-10%） ・事業期間変動：B/C= 6.2（事業期間+1年） B/C= 6.8（事業期間-1年）		
事業の効果等 ： 徳島インターは、国道11号と四国縦貫自動車道・四国横断自動車道が直結することで徳島中心部および、業務系都市機能拠点から西日本広域へのアクセス性向上、ならびに国道11号等の交通流の円滑化、救急医療や災害時の緊急輸送を支える重要な役割を担う。		
①円滑なモビリティの確保 ・国道11号の混雑度の削減が見込まれる【混雑度 1.9→0.96 約50%削減】 ・国道11号の渋滞緩和によるバスの定時制向上が見込まれる		
②物流効率化の支援 ・配送計画性の精度向上など農林水産品の流通の利便性が向上 ・業務系都市機能拠点から鳴門IC間のアクセス向上が期待される【17分→10分】		
③国土・地域ネットワークの構築 ・京阪神の拠点都市（神戸など）～徳島市間のアクセス向上が期待される【1時間46分→1時間39分】		
④個性ある地域の形成 ・業務系都市機能拠点（平石流通センター、今切工業団地等が集積）の発展を支援する ・主要観光地（阿波十郎兵衛屋敷、阿波おどり会館、眉山など）へのアクセス向上が期待される		
⑤安全で安心できるくらしの確保 ・鳴門市内から三次医療施設（県立中央病院）へのアクセス向上が見込まれる【34分→30分】		
⑥災害への備え ・緊急輸送道路である国道11号の代替路線が拡充することが期待される		
⑦地球環境の保全 ・CO2排出量が約0.5千t/年削減（約0.1%）削減【648.6千t/年→648.1千t/年】		
⑧生活環境の改善・保全 ・NOx排出量が約0.8t/年削減（約0.03%）削減【2,489.6t/年→2,488.8t/年】 ・SPM排出量が約0.3t/年削減（約0.1%）削減【207.0t/年→206.7t/年】		

⑨交通安全性の向上を考慮した効果

- ・交通の分散による国道11号の交通事故減少が期待される

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・本事業の推進にあたっては、徳島県・徳島市より積極的な整備促進要望を受けている。

県知事の意見：

- ・この事業は、建設中の四国横断自動車道の鳴門～徳島間と一般国道11号を接続することから、県と徳島市が本四道路を經由して全国の主要都市と高速道路ネットワークで結ばれ、本県の産業・経済の発展や観光振興、救急医療活動の向上に欠かすことのできない社会資本であるため、引き続き、事業を継続し早期整備を図っていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

特になし

事業の進捗状況、残事業の内容等

用地買収及び工事の推進中、用地進捗率は平成21年10月末現在で92%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

本事業は、接続する四国横断自動車道（徳島IC～鳴門JCT（事業主体：西日本高速道路(株)））と連携し整備を進めており、四国横断自動車道（徳島IC～鳴門JCT）の供用目標である平成26年度に向け整備を推進する。

施設の構造や工法の変更等

プレキャスト製品の採用や橋梁の橋長短縮を検討するなど、コスト縮減を図る。

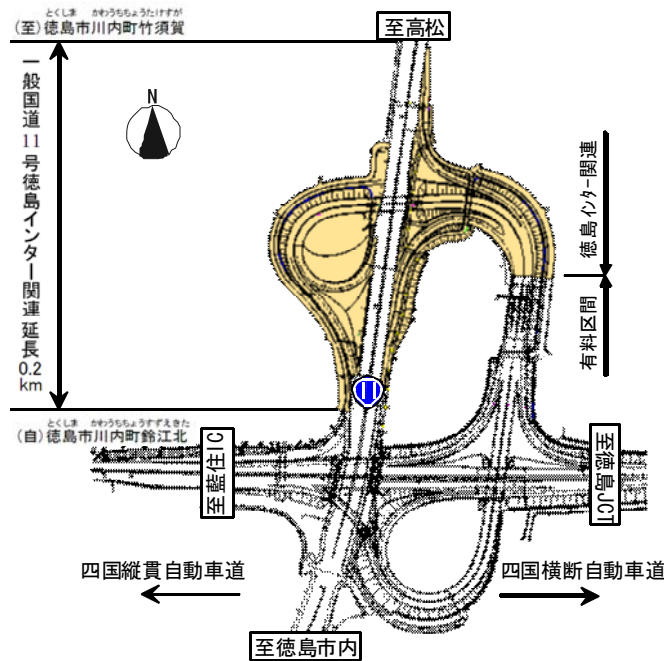
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



【平面図】

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。